



令和6年6月号  
所沢市立荒幡小学校  
校長 小林 雅行

## 「きき名人」～聞・聴・訊～

学校では今、朝顔、ホウセンカ、ミニトマト、さつまいも、ジャガイモ、キュウリ、ピーマン、ナス、へちま、オクラ等の植物・野菜を子供たちが一生懸命育てています。登校するや否や、植物に水をあげる子供たちの姿には心温まるものがあります。小さな植物・野菜等を大切に育てている姿は、生命の大切さを実感する風景でもあります。

ところで、そんな植物・野菜の中において、勢いよく育つものもあれば、萎れて枯れてしまうものもあります。何故でしょう・・・それは、植物・野菜の内なる声を、しっかりと「きく」ことができなかったからではないでしょうか。人間も同じだと思いませんか？心豊かな人間性を身につけ立派な大人に成長させるためには、我が子の心の中の声を真剣に「きく」こと。そして、その声を受け止め応えてあげることが大切だと感じます。そこで、「きく」という言葉を幾つか紹介します。

聞	く・・・耳で音や声を感じ取る。見聞、話し声を聞く。
聴	く・・・耳を傾け注意して聞き取る。聴取、名曲を聴く。
訊	く・・・相手に質問する。訊(尋)問、訊(尋)ねる。
効	く・・・良い作用や影響が現れる。有効、薬が効く。
利	く・・・機能・能力が発揮される。便利、機転が利く。

つまり、注意していなくてもきこえる音や声をきく姿には「聞く」を。話し手の胸の内を感じようと耳を傾け共感するようにきく姿には「聴く」を。話す内容について質問したり尋ねたりする姿には「訊く」を、我々は使い分けています。さて、学校生活や家庭での生活における我が子の「きく」姿や親の我が子への「きく」姿は、いずれに相当するのでしょうか。

学校では、子供たちの「きく」という活動を重要視して指導しています。例えば「声のものさし」という指標を作り、教室に掲示し指導内容ごとに意識させています。また、「話をしている相手を見て」「うなずきながら」「何を伝えようとしているのか意識してきく」等、「きき方」の上達にも取り組んでいます。「きき方」が上手な子供たちは、無駄なお喋りが少なくなり授業への集中度も高まり、成績だけでなく、人間関係もよりよいものへと変わっていきます。さらには、友達からの信頼も厚くなり、益々学校生活が楽しくなってくるでしょう。

さて、親の我が子への「きく」姿はいかがでしょうか？多忙な毎日を送る親にとって、そう簡単なことではありませんが、せめて「聴く」「訊く」親でありたいものです。

学校での子供たちの活動の様子をホームページ  
(R6 今日の実績)にアップしています。  
ぜひ、ご覧ください。

所沢市立荒幡小学校 ←検索



HP  
二次元コード